

(別紙様式3)

令和2年3月27日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 島根県松江市殿町1番地
管理機関名 島根県教育委員会
代表者名 教育長 新田 英夫 印

令和元年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和元年6月20日(契約締結日)～ 令和2年3月31日

2 指定校名・類型

学校名 島根県立出雲農林高等学校
学校長名 三島 一友
類型 プロフェッショナル型

3 研究開発名

出雲を愛する農業人材の育成 ～地域資源の再発見 出農 地域創生プロジェクト～

4 研究開発概要

本校はこれまでに、地域農業を支える人材・専門的職業人育成に関わる文部科学省指定事業に取組み、「目指せスペシャリスト事業」や「地域産業の担い手育成プロジェクト事業」の各研究から、起業家精神を育み、地域資源を活かした農業関連産業の振興ができる人材の育成を図り、農業各分野のスペシャリスト育成を図ってきた。また、「高校生の基礎学力定着に向けた学習改善のための調査研究事業」により、学習意欲の向上及び基礎学力の定着を図ってきた。これらの取組みにより、地域農業を支える人材・専門的職業人育成に対して大いに期待されており、在校生の地域に対する興味関心や学びに向かう意欲は高い。

出雲市は人口約17万人、島根県では松江市に次ぐ中核都市であり、出雲平野が広がり、古くから稲作を中心とした農業が盛んな地域である。しかしながら出雲市の農業就業者数は減少の一途をたどり、就業者の約7割は60歳以上と高齢化が進んでいる。したがって、出雲の立地及び資源を活かした農業を担う若年層の新規農業従事者を育成していくことは喫緊の課題であるといえる。また、本校生徒の地元就職者の内、本校設置学科に関連する産業への就職割合は3～4割台にとどまり、未だ低い値を示している。そこで、出雲市と学校の共通課題である

「出雲農業の担い手・後継者の育成」に向け、出雲魅力化コーディネーターとともに出雲市と学校との協働体制の構築及び地域協働学習カリキュラムの開発を目的に研究を実施した。

5 教育課程の特例の活用の有無
教育課程の特例の活用「無」

6 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程 (回)											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
事務局会	(2)	(1)	(1)	(2)	(2)	(1)	(2)	(1)	(2)	(2)	(1)	(1)
出雲農業創生会議		(1)	(1)	(2)	1			(1)	(2)	(1)	1	(1)
運営指導委員会								(1)	(2)	1	(1)	(1)

※ () は事業検討・協議の実施回数

(2) 実績の説明

ア 管理機関による事業の管理方法や地域において構築するコンソーシアムの構成、カリキュラム開発専門家、地域協働学習実施支援員の配置について

(ア) コンソーシアムの構成団体

出雲農林高校支援コンソーシアム(出雲農業創生会議)は、長岡秀人出雲市長を会長とし、出雲市教育委員会、出雲市農林水産部、島根県農業協同組合出雲・斐川地区本部、島根県東部農林振興センター、島根県農業技術センター及び島根県畜産技術センターにより構成する。年間2回の全体会において、本研究の具体的な計画・進捗状況の管理及び、今後の方向性について協議・検討した。

(イ) 活動日程・活動内容

コンソーシアムを平成31年3月29日に組織し、第1回の全体会を令和元年8月20日に開催した。この会では、令和元年度事業計画について協議し、初年度の活動方針を決定するとともに、出雲市及び出雲農林高校における共通課題について協議し、本事業における課題を共有、事業で目指す目標を設定した。

第2回の全体会は、令和2年2月7日に開催し、令和元年度活動実績についての報告をもとに、初年度の活動の評価及び次年度の活動計画について協議を行った。また、第2回の全体会において、「出雲農林高校支援コンソーシアム(出雲農業創生会議)規約」の策定及び役員を選任を行い、持続的な組織体制を整え次年度に向けてコンソーシアムの活動の推進を確認した。

(ウ) 出雲縁結びコーディネーター(カリキュラム開発専門家)について

本事業におけるカリキュラム開発専門家の役割は①持続可能な出雲農業の実現のための農業学習支援及び②ふるさとへの興味・関心・貢献意欲の醸成のためのカリキュラムの開発等である。主な支援内容は、本校は平成30年度時点でGLOBAL.G.A.P認証(ブドウ)や県GAP認証である美味しまね認証(水稻)を取得しているため、これら認証を活用した安全安心な農業学習の深化に係わる支援等を実施した。また、小中学校に向けた食育協働活動等でこれら認証制度を広く普及できるような活動体制の整備についてのカリキュラム開発を実践した。

(エ) 縁つなぎコーディネーター（地域協働学習実施支援員）について

本事業における地域協働学習実施支援員の役割は①各学科と地域による出雲資源を活用した協働プロジェクト学習の活動支援及び②地域課題を解決する実践力の育成のための協働体制の構築等である。本校では現時点で地域協働研究を各学科で実施している。それら協働研究活動に対して生徒自身がより効果的、主体的に取り組めるよう ICT 機器を活用したプロジェクト学習の充実に係わる支援を実施した。

イ 管理機関による主体的な取組について

(ア) 管理機関（コンソーシアム含む）における主体的な取組について

管理機関における主体的な取組み

- ・魅力化交付金事業
- ・コンソーシアム設置モデル事業
- ・コンソーシアムへの伴走
- ・明日のしまねを担うキャリア教育推進事業
- ・高校魅力化評価システムの構築
- ・出雲農業創生会議との連携協定の締結

コンソーシアムによる先進的な地域課題研究に関する主体的な取組み

- ・校内環境整備に関わる研究
- ・出雲コーチン育種開発研究
- ・ハマボウフウによる海岸緑化の研究
- ・新品種のブドウ苗育成による産地振興研究
- ・G A Pの普及に関わる研究
- （ドイツ研修、GLOBAL.G.A.P. 認証の更新）

ウ 高等学校と地域の協働による取組に関する協定文書等の締結状況について

名称	締結日	締結団体・企業
人づくりと和牛育種連携事業	平成24年 5月11日	島根県畜産技術センター他
出雲農林高等学校と古代出雲歴史博物館との連携	平成27年10月11日	島根県立古代出雲歴史博物館
産官学連携課題研究事業	平成27年10月17日	株式会社ホテル一畑
フルボ酸の植物活性効果研究と気象系の農業活用に関する覚書	平成28年 1月13日	株式会社テクノシステム
出雲コーチン利用促進協議会	平成29年 6月15日	島根県農業協同組合他
出雲地域G A P推進協議会	平成30年 5月14日	出雲市農林水産部農業振興課他
地域との協働による高等学校教育改革推進事業に関する協定書	平成31年 2月 1日	J Aしまね出雲地区本部 (地域協働学習実施支援員)
地域との協働による高等学校教育改革推進事業に関する協定書	平成31年 2月 1日	島根県東部農林振興センター (カリキュラム開発専門家)

エ 事業終了後の自走を見据えた取組について

県教育委員会は、2020年度から「高校魅力化コンソーシアム」を全ての県立高校に設置を目指し、コンソーシアムでの協働活動が推進されるように事業の再構築を行い、支援体制の充実に計画している。研究期間終了後も出雲市及び中核パートナー組織と関係を強化し、出雲地域農業を担う人材育成を継続できるように、コンソーシアムの組織体制を構築し、地域や生徒の実態にあわせた事業内容を実践し、コンソーシアムの目標実現に向けて継続的に取り組む。また、県農林水産部・県教育委員会が連携した「地域の若い農業者育成・定着支援事業」の中で、県内の農業関係高校への実践内容の周知を行うなど、継続的な事業の実施について支援の方策を検討する。

7 研究開発の実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程 (回)											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
持続可能な農業学習	(1)	(2)	(1)		1		4	1		3	3	2
スマート農業学習		(1)	(1)	2	1	1	1	2	1			
地域課題解決型学習	(1)			1	1		1	1		1	2	2

※ () は事業締結前の検討・協議の実施回数

(2) 実績の説明

ア 研究開発の内容や地域課題研究の内容について

本事業は、農産物（食品）の安全を確保し、より良い農業経営を実現する「持続可能な農業学習（GAP の理念）」、農業の効率化及び ICT の活用など、分野横断的な連携による Society5.0 への対応を視野に入れた「スマート農業学習」及びふるさとへの興味関心・貢献意欲を醸成し、地域農業の魅力や課題を再発見することでプロジェクト学習に結びつける「地域課題解決型学習」の3つの取り組みを中心に令和元年度の研究開発を推進した。

イ 地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け

本事業の中核的となる学校設定科目「サイエンスアプローチ」において、探究的な学びの土台形成を目的に国語・数学・英語の学び直しトレーニングによる基礎学力の定着を図ると同時に、各専門科目の学習で身につけた知識・技術を地域課題探究等の実践につなげることを目的に「農業キャリアガイダンス」を実施した。また、農業科目「農業と環境」「総合実習」を中心に GAP 学習及びプロジェクト学習において P D C A サイクル等による探究的活動の手法について実践的な学習をした。最終的には、科目「課題研究」において各学科や地域の課題等を題材として探究的な学びにつなげ、継続的なプロジェクト学習として内容が深まるように工夫をした。

ウ 地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組について

本事業では、学校設定科目「サイエンスアプローチ」を教科横断的な学習の推進科目として位置づけ、3年間の系統的な学習の柱として、1年時には①で前述の「農業キャリアガイダンス」、2・3年時には地域課題探究に関わる視察研修等を実施した。その中で得られた知識や技術等の経験値を各学科の農業科目の学習に繋げ、農業学習への意識を向上させると同時に地域を題材とした探求的な活動へフィードバックできる指導体制の構築を進めた。次年度以降にさらに検討を重ね、各取組の充実のためのカリキュラムに反映をさせていきたい。また、基礎学力の定着に関わる国語・数学・英語学習において、数値データの分析及び文章読解能力等の情報活用能力を涵養することで、課題研究をはじめとする農業科目等プロジェクト学習の充実を図りたい。

エ 地域と協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制

本年度は、「農業・地域・学校生活に関するアンケート調査」を6月20日及び12月25日の2回実施し、生徒の「①持続可能な農業学習」・「②スマート農業学習」及び「③地

域・農業に関する意識」について数値化し、実践の参考及び評価データとした。この調査により、生徒の意識の現状と変化が把握でき、指導方針や目標等の設定のための基礎資料として活用できた。調査データは、コンソーシアムにおいて情報の共有を図るとともに、研究推進本部の協議をもとに、地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントが推進できるように継続的な体制の構築をした。実際に本調査の分析結果をもとに、学校設定科目「サイエンスアプローチ」において、出雲縁つなぎコーディネーターの支援による「農業キャリアガイダンスⅠ・Ⅱ」を令和元年度に実施した、また、縁結びコーディネーターの支援によるGAP学習についても、令和2年度の活動計画を作成するなど、継続的にカリキュラム・マネジメントを推進していく予定である。

オ 学校全体の研究開発体制について（教師の役割、それを支援する体制について）

学校全体の研究開発体制について、以下のように学校内に事業推進に関わる事務局を設置し、校内運営委員会、職員会議、農業委員会及び農場部会等の諸会議において研究開発が円滑に推進されるよう組織体制を構築した。また、各学年会や学科においても学年主任や学科長を中心に活動計画及び活動実績等の情報共有を図った。

科・職	氏名	役割
教頭	山根 登	<ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーターとの連絡調整 ・校内教職員への連絡及び情報共有 ・農業キャリアガイダンス担当
植物科学科 農場長	立原 祐二	<ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーターとの連絡調整 ・農業委員会等での連絡及び情報共有 ・出雲市農林水産部との連絡調整
教務部長 (教諭)	鈴木 謙治	<ul style="list-style-type: none"> ・校内カリキュラム・マネジメントに関わる検討及び調整 ・基礎学力定着に関わる教育指導担当主任
動物科学科 教諭	三崎 忠幸	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業担当 ・事業意識調査（農業・地域・学校生活に関するアンケート）開発担当
食品科学科 教諭	吉川 樹	<ul style="list-style-type: none"> ・研究開発主任 ・研究開発推進

カ カリキュラム開発専門家、地域協働学習実施支援員の学校内における位置付けについて

(ア) カリキュラム開発専門家の配置

島根県東部農林振興センター出雲事務所長 山本 智之氏（都度依頼）

活動日程	活動内容
令和元年5月10日	出雲農林高等学校の文科事業事務局会に出席 <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度事業における活動計画について協議 ・出雲農林高等学校の教育活動について情報共有
令和元年5月21日	<ul style="list-style-type: none"> ・事業3か年におけるGAP学習に関わる検討協議
令和元年6月12日	<ul style="list-style-type: none"> ・「農業・地域・学校生活に関するアンケート」の質問項目「GAPに関わる意識」の設問助言
令和元年6月15日	出雲農林高校発表会に出席 <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト発表会及び意見発表会に対する指導講評

活動日程	活動内容
令和元年8月8日	出雲農林高等学校の文科事業事務局会に出席 ・第1回全体会に関わる事業内容について協議
令和元年8月20日	第1回全体会に出席 ・令和元年度事業内容について協議 ・コンソーシアムでの取り組み等の情報共有
令和元年12月12日	出雲農林高等学校の農場部会に出席 ・課題研究の充実に関わる協議及び情報共有
令和2年1月30日	出雲農林高等学校の文科事業事務局会に出席 ・第2回全体会に関わる事業内容について協議
令和2年2月7日	第2回全体会に出席 ・令和元年度活動実績についての評価 ・コンソーシアム規約策定

(イ) 地域協働学習実施支援員の配置

J A しまね出雲地区本部西部営農センター長 石飛 英彦氏（都度依頼）

活動日程	活動内容
令和元年5月10日	出雲農林高等学校の文科事業事務局会に出席 ・令和元年度事業における活動計画について協議 ・出雲農林高等学校の教育活動について情報共有
令和元年8月8日	出雲農林高等学校の文科事業事務局会に出席 ・第1回全体会に関わる事業内容について協議
令和元年8月20日	第1回全体会に出席 ・令和元年度事業内容について協議 ・コンソーシアムでの取り組み等の情報共有
令和元年10月3日	・農業キャリアガイダンスⅠの実施期日及び各学科研修先の設定に関わる検討
令和元年11月13日	・農業キャリアガイダンスⅡの実施期日及び各学科研修内容の設定に関わる検討
令和元年12月12日	出雲農林高等学校の農場部会に出席 ・課題研究の充実に関わる協議及び情報共有
令和2年1月30日	農業キャリアガイダンスⅡ ・出雲農業学習講話1（食品科学科1年生）
令和2年2月6日	農業キャリアガイダンスⅡ ・出雲農業学習講話2（食品科学科1年生）
令和2年2月7日	第2回全体会に出席 ・令和元年度活動実績についての評価 ・コンソーシアム規約策定

- キ 学校長の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していく仕組みについて
本事業を進めていく上で学校長は、年度始めの職員会議において事業全体の主な目的と実

施内容について説明した。併せて、事業による導入機器の活用についての報告等、職員全体の周知に努めている。また、定期的に開催される校内事務局会や推進委員会の協議内容を把握し、進捗状況に対する適切なアドバイスを行っている。なお、予算の執行等についても、事務長及び予算担当者と密に連絡を取り合い、適切な処理を確認している。

事業改善の仕組みとして、第1回出雲農業創生会議及び運営指導委員会等での指導内容や評価を事業の実施に迅速に反映させるため、計画の見直しや方法の改善を担当者と協議しながら進めた。

ク カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について

今年度は、1年次の取組みとして「基礎学力の定着と創造力の育成」を中心に研究開発を推進した。その中で、学校設定科目「サイエンスアプローチ」の学習において、出雲縁つなぎコーディネーターと連携し、「農業キャリアガイダンス」を実践した。この活動において、中核パートナー組織である島根県農業協同組合等を中心に、協働した教育活動を実践することができた。また、出雲縁結びコーディネーターとの連携を通して、科目「農業と環境」や各学科専門科目等で持続可能な農業学習に取組み、教科間を横断したプロジェクト学習を展開するためのカリキュラム開発に関わる検討を継続している。今後は、出雲縁つなぎプロジェクト学習や地域課題探求学習を通して、研究開発を推進していく。

ケ 運営指導委員会等、取組に対する指導助言等に関する専門家からの支援について

出雲農林高校が取組む「出雲を愛する農業人材の育成～地域資源の再発見 出農 地域創生プロジェクト～」の研究開発に係わる事業について、専門的な知見から指導、助言及び評価に当たる。運営指導委員は、農業分野の専門家3名、教育分野の専門家2名で構成する。本事業では、次の5名の運営指導委員に委嘱をした。

○運営指導委員会の構成員

所属団体（所属・名称）	氏名
出雲地方農業士会（有限会社黒田農場）	会長 黒田 富広
島根県農林水産部農業経営課	管理監 原 幸生
公益財団法人しまね農業振興公社就農促進課	課長 朝倉 祥司
一般社団法人地域・魅力化プラットフォーム	共同代表 岩本 悠
島根県教育委員会	教育監 佐藤 睦也

令和元年度は、令和2年1月15日に運営指導委員会を開催し、事業報告（研究内容の進捗状況、発表等要項説明、今後の計画等）について協議した。今後も研究計画をもとに事業を実施していく中で必要に応じた研究内容が効率よく進み、成果が確実に向上するように、関係機関と連携を図り事業を推進する。

コ 類型毎の趣旨に応じた取組について

本研究は、課題解決のために意欲的に学習活動に取組み、習得した知識技能を未来創造につなげる「創造力ある人材の育成」、出雲の課題を組織で解決するために、周囲と協働して

新たな価値や魅力を生み出そうとする「応用力・企画力ある人材の育成」及び出雲の魅力を広く発信できるプレゼンテーション力を習得し、主体的に地域創生に結びつける「行動力・実践力ある人材の育成」を求める人材に設定している。人口17万人の中核都市である出雲市において、島根県の農業教育を牽引するリーディングスクールとして、出雲農業及び地域の産業の担い手育成を本校と出雲市及び関連企業等（中核パートナー組織）とで支援コンソーシアムを構成し、協働で求める人材の育成を目指す。そして、農業の専門学科におけるモデルになるように取組んでいきたい。

本年度は、1年次の基礎学力の定着と創造力の育成に関わるプロジェクト学習の基礎（土台の形成）、学校設定科目「サイエンスアプローチ」における数学・英語を中心とした基礎学力定着及び農業キャリアガイダンスに関わる取組みを、第1学年を中心に展開した。第2学年は「国語の標準実践」や「スマート農業学習」を、第3学年は地域と連携した研究活動による「地域課題解決型プロジェクト学習」を中心に展開した。これらの取組により、学校、出雲市及び中核パートナー組織の連携・協働を強化し、地域創生に必要な資質能力を指す「出雲創生力（創造力・企画力・実践力）」を習得した出雲を愛する農業人材を育成するために、調査・検討を継続して実施した。

サ 成果の普及方法・実績について

本年度の事業成果の普及は、10月に開催された全国サミットでの報告に加え、令和2年2月7日に島根県教育委員会が主催する「大人の探究フェスタ」（参加者：教職員、市町村、コーディネーター、関係機関）等において、専門高校での地域と協働によるコンソーシアム構築の成果と課題、校内の実施体制等の実践発表をし、県内の各地域・各学校における今後の方向性を共有しながら、県内に本年度の成果を報告した。また、「地域課題解決型プロジェクト学習」での研究成果の普及は、島根県農業協同組合が7月13日に開催した「しまねアグリミーティング2019」での発表をはじめ、GLOBAL.G.A.P. ドイツ視察研修を実施してFoodPLUS 本部において研究成果報告、全国ヤギサミット及び和牛甲子園等、国内外多岐に渡り普及のための活動を実施した。次年度以降も毎年6月に開催予定の「出雲農林高校発表会」や学校のホームページ等の機会を通して、適宜地域での研究成果を広く普及していく計画である。

8 目標の進捗状況、成果、評価

本事業における成果目標は、「平成30年度 高校魅力化アンケート（島根県版）」におけるデータを参考に目標数値を設定した。その中で、「将来、自分の住んでいる地域のために役に立ちたいという気持ちがある」に対する肯定的回答割合が目標値である50.0%に対して73.5%と高くなった。対して「複雑な問題を順序立てて考えることが得意だ」「将来の国や地域の担い手として、積極的に施策決定に関わりたい」に対する肯定的回答における数値が目標値である55.0%に対してそれぞれ28.9%、29.1%と目標値に満たない数値であった。

地域人材を育成する高校としての活動指標では、地域と協働した研究活動の検討会開催回数及び成果発表の実施状況等が現時点で数値目標を達成している。地域人材を育成する地域としての活動指標では、農業キャリアガイダンス等地域との協働によるキャリア学習をはじめとする、各学科による地域と協働した活動指標が概ね数値目標を達成している。

これらの結果から、本年度様々な地域農業に関わる学習を通して地域貢献意欲が醸成されたと考察できる。しかしながら、本校生徒は地域の特性・課題・問題点に関わる学習や地域貢献意欲が高いことが特徴であるが、学習から得られた課題や問題点について主体的に関わり、改善や解決に結びつける「探究性」に関わる資質・能力に苦手意識を持つ生徒が多いことが分かる。

<添付資料>目標設定シート

9 次年度以降の課題及び改善点

本年度は、①ICT 機器の導入による学びの意欲や情報活用能力を育成するため学びの土台を形成する、②農業キャリアガイダンスにより主体性・探究性を育成するため地域課題を知る機会を設定する、③スマート農業学習により知識技術を育成するため新技術を知る機会を設定する、④地域と協働した探究活動により社会性・協働性を育成するための専門的知識技術の習得に関わる取組みを実践した。

それぞれの項目について、今年度の取り組みから課題となることをまとめた。①については、BIGPAD やタブレット PC、養牛カメラと牛温計の導入により視覚的な教材や調べ学習の充実、牛の出産時における勤務負担の軽減が図られた。また、この機器を授業に導入するための研修会や授業公開を実施するなど授業改善につながるように実践した。実際の授業では、何人かの先生方がさっそく授業において対話型学習活動において情報や意見の共有に機器の活用が行われていた。このような機器の使い方はもちろん有効であるが、この使い方からさらに発展させ、「なぜ今、こうなっているのか?」、「この原理や法則に基づいた動きはどれ?などの問いから生徒の答えを導き出し、植物や動物、食品などについての知識や思考を深めることができる。」との意見を運営指導委員会で頂いた。学びの意欲を醸成するために、また、主体的で対話的な深い学びを実践するために特に大切なこととして、教職員間でこの意見を共有して来年度の授業改善を進めていく必要がある。

②については、縁つなぎコーディネーターの協力で見学先や講師を紹介して頂き、実施することができた。この事業で唯一の新事業であり、手探り感があり事前学習や事後学習及びアンケートの実施内容が十分でなかった。目的や実施内容の理解を生徒が十分に把握し、地域農業の実態及び課題がイメージできるように指導する必要がある。また、「地域農業関係者の講話による出雲農業学習」での講師が、JA関係者に偏ってしまったことがあげられる。本来は、学科に関係した農業自営者の講話を聴くことによって、実際の農業のおもしろみや難しさ、課題やその解決に高校生として取り組めることをグループワークなどから広げていくことが重要だと考える。来年度の人選については、早期にコーディネーターとの協議を重ね、農家の生の声を聴かせたいと考える。また、講話の構成について事前の打ち合わせが不十分な点があり、説明資料や視聴覚的教材の有無など、生徒の興味や関心を喚起する材料の準備をきちんと依頼すべきだったと考えている。このことは、キャリア教育の観点や目的を外部の方に分かりやすく説明し、協力頂くことがこの講話の重要な部分を占めていると考える。

③については、新技術と直に触れる機会が少ないことがあげられる。持続可能な農業を展開していくうえでは、とても必要な内容ではあるが島根県のような地方では、まだまだ実践されている農家や事業所は少なく、見学できる場合は県の農林水産部関係機関での研修会や一部のJA関係企業といったところである。生徒には、なるべく本格稼働している状況を間近で見せ、

将来の農業のあるべき姿をイメージさせたいと考えている。本校にも、測量のできるドローンや自動運転のトラクタやコンバイン、自動搾乳施設の配備や施設改修が望まれる。

④については、「G-GAPの認証継続と地域への普及」：食品科学科及び「出雲コーチン利用促進」：動物科学科が代表的な取り組みとなっている。これだけでなく、4学科からいくつもの地域に関係した課題研究のテーマが設定され、その研究に地域の農家や事業所、JAや県の関係機関と連携した取り組みを発生させることが、本事業の推進に大きな意味を持つと考えている。2年目に向けて地域農業の課題を身近なものとして捉え、イメージーションを提案することができるようこの事業を推進していきたい。

まとめとして、「農業キャリアガイダンス」等の事業の実践の中で生徒の変容など得られた知見を、仲間とあるいは地域とつなげることで、個人としてだけでなく多くの人と協働し、地域の資源の魅力を持続させるとともに、新たな取組を推進できる人材の育成につながると考えられる。まずは、地域の現状を「知る」ことから「変える」意欲につながることも重要となる。本年度は、生徒の変容や分析について、アンケートを主体として行っていました。今後は進路希望調査などの他の調査内容と併せて分析し、総合的に変容を分析していきたい。

また、スマート農業学習から地域農業を変え普及できる技術を習得し、新たな技術を有効に活用できる応用力を養い、地域農家が求める「スマートな農業」に携わる人材の育成につなげたい。最終的に、高校3年間で地域の課題を主体的に活用できるベースとなる能力を習得し、地域農業を創生する人材の育成をコンソーシアムの活動として高校の在学中から卒業後の支援につながるの取組として、「出雲を愛する農業人材の育成」につなげられるように事業を推進したい。

今後の課題として、本年度の学習を次年度に結びつける手法の検討が挙げられる。今年度、第1学年を中心に地域と協働した活動を実践したが、この学習で得た経験を第2学年からはじめる課題研究をはじめ、プロジェクト学習に結びつけ、学びの価値付けや連続性を持たせることが重要である。この課題に取り組むにあたり出雲縁つなぎプロジェクト学習の展開方法について、縁つなぎコーディネーターとの連携や支援を継続して行う必要がある。

また、GAP 学習から持続可能な農業を学習するための手立てや評価方法の検討及び蓄積したデータを活用する手法の検討が必要である。GLOBAL G. A. P. 認証に関わる取組みで得られた知見を、学校全体の取組みとして長期的に普及や活動につなげ、本校を島根県内の GAP 拠点地とする事業案を縁結びコーディネーターの協力により計画している。この活動を令和2年度より具体化し、実現に向け検討及び協議を進めていくことが課題である。

前述した課題を推進に変えるためには、今年度新設した「出雲農林高等学校支援コンソーシアム」とより円滑な情報共有や連携が必須となる。全体会として、年2回の開催のみであるが、学びの深化及び地域に根ざした探究活動の実践のためには、各学科および担当部門の教職員の積極的な関わりが必要不可欠である。地域の農業情勢や特産化、栽培の奨励品種などの島根県や出雲市の動向に注視しながら、さらに校内組織体制も強化を図り、継続して事業推進を行い当初の目的が達成されるよう推進を図る。

【担当者】

担当課	教育指導課	TEL	0852-22-6057
氏名	原 隆 志	FAX	0852-22-6026
職名	指導主事	e-mail	hara-takashi@edu.pref.shimane.jp